

出題分析		
試験時間 2 科目 150 分	配点 50・75 点	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加〕	難易度変化（昨年比較）〔易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化〕	
<p><b>【概評】</b></p> <p>大問は例年通り 4 題で、基礎知識に加えて論述力・計算力が問われたが、昨年の前期試験に続いて描図問題は出題されなかった。内容としては、地球の内部構造、地表の変化と地質断面図、夏の天気図、系外惑星であった。昨年と比べて、計算問題は 4 問のままだが、指定字数のある論述問題の論述量は 300 字から 370 字に増加した。やや深掘りした知識や、かなり細かい読解・読図力を求められる問題も複数見られた。例年通り基本的な知識で解ける問題が大半だが、指定字数が短く答案に盛り込む要素を絞るのに苦労する論述問題が多く、数値計算や単位の変換がやや複雑な計算問題もあったため、全体として難易度は昨年よりやや難化したと思われる。</p> <p>※配点は、総合科学選抜群と水産学部は 75 点、数学・物理・化学・生物の重点選抜群は 50 点</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	地球の内部構造、各層の元素組成、マグマ液相と固相の元素分配、ケイ酸塩鉱物、幌満オフィオライトの成因	どの論述も指定字数がやや不足気味で、特に問 4 と問 7 は解答方針の策定にも非常に苦労する。数値計算がやや複雑な問 2 と併せて、難問に取り組むのは他の大問よりも後回しでよいだろう。（語句 10 問、計算 1 問、論述 3 問(30 字×2・50 字)）	難
2	地表の変化と地質断面図、地層や岩石の変形、碎屑粒子と流速、河岸段丘、示準化石、油田の地質構造	問 1（ウ）で問われているある流速で運搬される碎屑粒子の体積の最大値はかなり細かい知識だが、それ以外の問題は比較的解きやすいので、手早く確実に解答したい。（語句 7 問、数値 1 問、選択 3 問、整序 2 問、論述 1 問(60 字)）	やや易
3	夏の地上天気図、停滞前線と台風、高気圧の風速の限界、フェーン現象、ヒートアイランド現象	気温と風と天気の時間変化を示した図 4 つを天気図上の 4 地点と対応させる問 2 は、区別の難しい地点もあるためかなり難しい。問 1 の計算の単位変換にも注意が必要である。（計算 1 問、選択 4 問、語句 4 問、論述 2 問(40 字・60 字)）	難

設問別講評			
4	系外惑星、ドップラー分光法、主系列星の定義、木星型惑星の性質、放射平衡温度とハビタブルゾーン	基本的な知識と標準的な計算力、論述力があればそれほど時間をかけずに解答できる。手早く確実に解答して、他の大問を解くための時間を確保しよう。(計算2問、論述2問(40字・60字)、正誤5問)	やや易

合格のための学習法
北海道大学の地学では、標準的な知識問題に加え、計算問題、描図問題、論述問題が出題される。「地学」の教科書に記載されている内容を隅々まで正しく理解するような学習が必要である。特に字数制限のついた論述問題が多く出題されるので、解答のポイントをしぼり、まとめる練習をしておこう。作成した解答を添削してもらっても良いだろう。また、図から考察するような問題や描図問題にも取り組んでもらいたい。例年、幅広い内容から出題されているため、弱点となる分野をつくらないように頑張ってもらいたい。